

平成24年度 福祉のまちづくり研究所企画運営委員会【事前評価】

	研究課題名	コメント
1	福祉のまちづくりアドバイザー制度を強化するための指針策定 - 既存建築物や小規模建築物におけるバリアフリー配慮と工夫 -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いつきにくい発想だが重要であり、指針の取りまとめは意義がある。</li> <li>・個人所有の施設等への働きかけが大切である。</li> <li>・特に行政において十分に活用方法を検討する必要がある。</li> <li>・ユニバーサル社会づくりとの連携をはかっていただきたい</li> </ul>
2	バリアフリーに配慮した生活道路のゾーン対策に関する提案研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活道路に対する研究が重要である。</li> <li>・安全性に対する客観評価に期待する。</li> <li>・様々な方策を用いて普及につとめていただきたい。</li> <li>・自転車との共存性やシェアード・スペースについても検討のこと。</li> </ul>
3	高齢者・障害者の生活支援交通づくり普及に向けた研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町の施策との相関やスーパーマーケット等との連携についても検討のこと。</li> <li>・多面的アプローチが必要である。</li> <li>・ガイドの対象を明確にし、それにあつたものにする。</li> <li>・外部資金の獲得や大学等との連携も検討のこと。</li> </ul>
4	多様な人々に対応したオフィス職場環境の設計に関する研究 - ユニバーサルデザインの概念と聴覚障害者の就労バリアの解決について -	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の少ない研究内容であり、効果が期待できる。</li> <li>・聴覚障害者の就労特性や企業の雇用傾向も検討のこと。</li> <li>・関係団体との連携が不可欠である。</li> <li>・聴覚障害者の就労の実態把握も必要と思われる。</li> </ul>
5	高齢者・障害者の日常生活における認知機能評価に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者等に対する評価について研究するもので社会的なニーズは高い。</li> <li>・関係する分野との連携が重要である。当研究所の強みを活かしていくべき。</li> <li>・評価方法を開発した後、現場で使用されるための方策までを含めたい研究されたい。</li> <li>・現在の評価方法との関係性を明確にし、どのような生活機能と結びつけるのか方向づけが必要。</li> </ul>
6	在宅摂食嚥下リハビリ支援機器の開発研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅で使えることは重要であり、成果が障害を持つ方に十分に活用できる。</li> <li>・普及させやすい開発対象であるので良い結果が期待される。</li> <li>・疾患進行度(筋力低下)についても検討のこと。</li> <li>・導入しやすいシステムに仕上げる。</li> </ul>
7	筋電義手在宅練習支援システムの研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅で対応できることは重要であり、十分に効果が期待できる。</li> <li>・子供には遊び、ゲームの要素を入れるとよい。</li> <li>・費用も含め、小児への十分な活用ができるよう研究を行うこと。</li> <li>・普及させるための方策についても検討いただきたい。</li> </ul>
8	片麻痺者を対象とした歩行リハビリテーション支援のためのコンピューターシミュレーション技術の応用研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的根拠に基づく診療に役立つ。</li> <li>・客観的評価手法として有効であり、現場での効果が期待できる。</li> <li>・合併症(複視など)のある場合も考慮すること。</li> <li>・医療機関等への十分なフィードバックを行い、臨床で使いやすいシステムを目指していただきたい。</li> </ul>